

D
i
S
C
O
V
E
r
y



名古屋大学

自由闊達な学風の下、
研究と教育を通じて新たな価値を創造し
人々の幸福に貢献する。





卒業・学位授与者数の累計

211,039名



蔵書数

3,398,580冊



教員数

1,627名



学生数

15,959名



学部数 9 研究科数 13

学科数 25 専攻数 51



土地面積

3,123,796㎡

建物面積

830,299㎡



収入 141,175 百万円

支出 131,456 百万円



留学生数 2,543名

FACT

名古屋大学の現在
2025

PROGRESS

名古屋大学の歩み



1871

名古屋県仮病院・仮医学校が設置される
(名古屋大学の創基)



1920

名古屋高等商業学校
(のち名古屋大学経済学部、
桜山キャンパス)を設置



1881

後藤新平が
愛知医学校長
兼愛知病院長
に就任



1949

新制名古屋大学として再出発



1960

名古屋大学のシンボルのひとつ
豊田講堂が完成



1990

森重文元教授
(現 特別教授)が
フィールズ賞を受賞



1908

第八高等学校(のち名古屋大学旧教養部、
瑞穂キャンパス)を設置



1939

名古屋帝国大学を創立
写真: 濵澤元治初代総長

2000

名古屋大学の憲法ともいべき
名古屋大学学術憲章を制定

それは1871年から続く、たゆみない挑戦の足跡。
 時代に翻弄されながらも、真理を究めようとする情熱のもと、
 研究者たちは道なき道を開拓し続けています。
 世界を変える新たな一步を、いま、この瞬間も。



2001

野依良治 理学研究科
 教授(現 特別教授)が
 ノーベル化学賞
 を受賞



2012

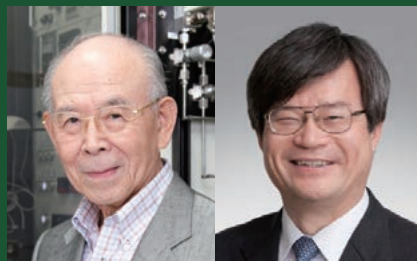
トランスフォーマティブ生命分子研究所が
 文部科学省「世界トップレベル研究拠点
 プログラム(WPI)」に採択



赤崎勇特別教授と天野浩工学研究科教授が
 ノーベル物理学賞を受賞

2004

名古屋大学が国立大学法人となる



名古屋大学が採択された文部科学省
 「スーパーグローバル大学創成支援事業」
 が始まる

2018

名古屋大学が文部科学省から
 「指定国立大学法人」に指定



2014



2015
 名古屋大学が
 国連ウィメンの「HeForShe」キャンペーンの
 「世界の10大学」に選出



2020

岐阜大学と経営統合し
 東海国立大学機構が発足



2008

下村脩博士がノーベル化学賞、
 小林誠博士・益川敏英博士が
 ノーベル物理学賞を受賞

2009

名古屋大学が文部科学省
 「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に採択

詳細はこちら▶



EDUCATION 教育

優秀な学生をグローバルに活躍する人材へと導くため、
従来の枠にとらわれない新しい教育を提供しています。
次なる勇気ある知識人が、ここから高く羽ばたくために。

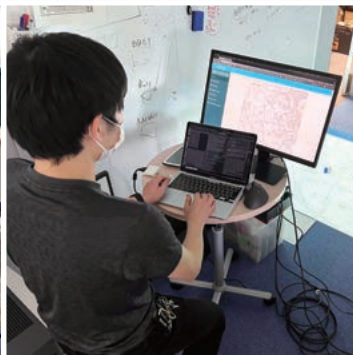
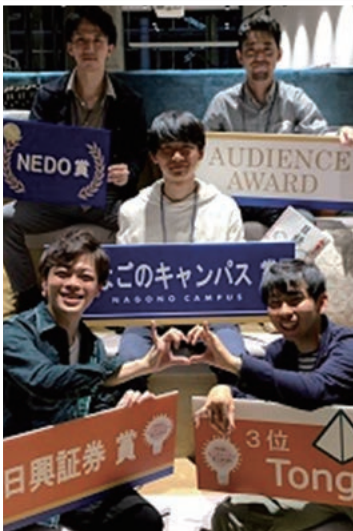
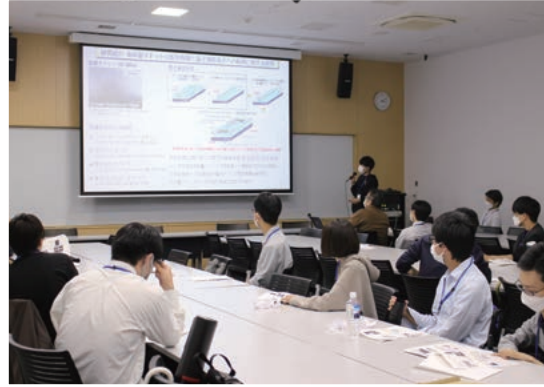
卓越大学院プログラム

卓越大学院プログラムは5年一貫の博士課程プログラム。大学院生は、化学と生命科学のように複数の専門が融合する領域の研究に取り組み、産業界や海外の研究チームとの共同研究に参加します。海外での研修やインターンシップなど世界の最前線を経験する機会も多く、研究に専念できるよう経済支援も用意されています。

卓越大学院プログラム数

4





博士課程学生を全力支援

大学院生を応援するため、授業料の減免や生活費の支援を拡大しています。博士後期課程の学生への平均支援額は一人あたり年間約178万円。約半数が、一般的に生活費が十分にまかなえる額とされる約240万円の支援対象です。さらに、学内外での雇用や奨学金なども用意し、総合的に支援しています。

博士後期課程
学生一人あたりの
経済支援額

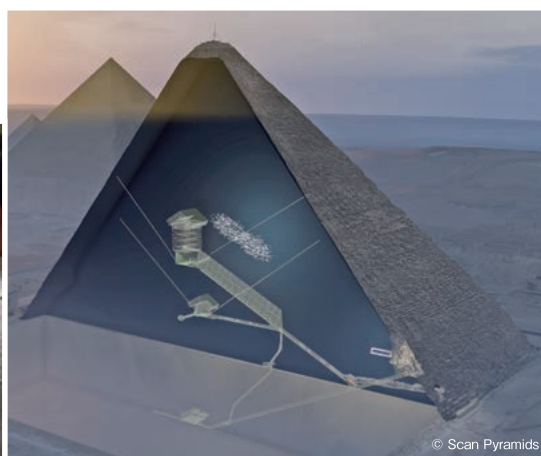
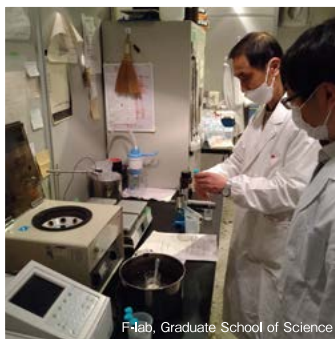
178万円／年

詳細はこちら▶



RESEARCH 研究

日本全国そして世界から
好奇心あふれる研究者たちが集う梁山泊が、ここに。
目指すのは、世界と伍する研究大学。



世界トップレベルの研究力

6人のノーベル賞受賞者を輩出するなど、世界トップレベルの研究力を誇る名古屋大学。知の成果は社会に還元され、世界を前進させてきました。現在も宇宙地球環境研究所、トランスフォーマティブ生命分子研究所、素粒子宇宙起源研究所、未来エレクトロニクス集積研究センターなど世界的な研究拠点が集まり、次の地平を拓く研究を繰り広げています。

名古屋大学関係の
ノーベル賞受賞者数

6人

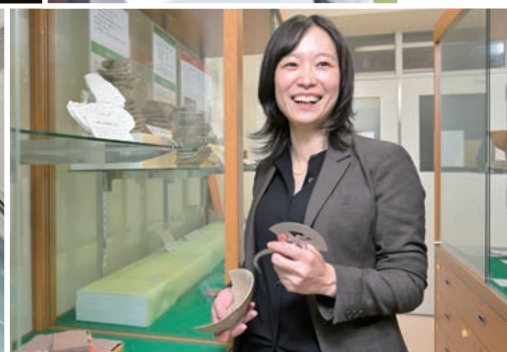
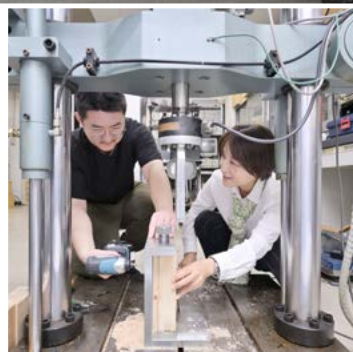
若手も女性も活躍できる研究環境

研究者がのびのびと挑戦的な研究に打ち込める自由闊達な研究風土、仲間と切磋琢磨する環境が名古屋大学にはあります。また、将来を担う若手研究者を育成するYLCプログラム、女性研究者のトップリーダー顕彰などを通じて若手や女性の支援に力を入れ、誰もが活躍できるダイバーシティな研究環境が広がっています。

YLC教員の
延べ採択人数

(平成22年度~令和6年度)

121人



詳細はこちら▶



DAILY LIFE 学生生活

東山、鶴舞、大幸の3キャンパスを大いに学び、究め、集う空間へ。
 緑に囲まれ、小鳥がさえずる豊かな森も。
 サークル活動にも情熱を燃やす学生たちが
 キャンパスの賑わいをつくりだしています。

キャンパス施設

キャンパスには、学生や教職員のための福利厚生施設が充実しています。健やかな食事が楽しめる食堂、リラックスした時間が過ごせるカフェ、勉強にかかせない図書や日用品などが手に入る売店など、学内に必要な施設が点在し、快適で便利なキャンパスライフをサポートしています。

学内のカフェ・
 食堂・売店などの数

28





サークル活動

数多くの学生が文化サークルや運動クラブに所属。仲間とともに活動に情熱を傾け、定期演奏会や各種競技会などで成果を残しています。また、毎年6月上旬に行われる「名大祭」は、例年約8万人の来場者を集める東海地区最大規模の大学祭。サークルやクラブによる約100種類ものイベントや研究室の一般公開、授業体験などが行われ、地域に親しまれています。

文化系公認サークル・
体育系公認クラブの数

119

独自奨学金による学生支援

経済的な理由で修学が難しい学生に向けて、大学独自の奨学金制度を設けています。本学卒業生が設立した「下駄の鼻緒奨学金」、民間企業などからの寄附に基づく「ホシザキ奨学金」「エンカレッジメント奨学金」、修学支援事業による「NU奨学金」の4つで、給付金により学生の学びたい意欲を応援しています。

独自奨学金の数

4

詳細はこちら▶



COLLABORATION

社会との連携

地域に向けた情報発信、産学連携による研究開発、
大学でのアントレプレナーシップ教育、ベンチャー育成など、
これまでにないスタイルで社会との連携が進んでいます。
世の中を驚かす研究成果を、社会へ届けるために。



Tongaliでの
アントレプレナー
シップ教育
2024年度受講生数

9,126人



アントレプレナーシップ教育

東海地区から世界に向けて、新しい価値を創造する人材を送り出すため、アントレプレナーシップ教育に取り組んでいます。東海地区の29機関(27大学・2機関)が参画する「Tongali」では、未来のアントレプレナーを目指す学生に活動の場を提供。アイデアの創出法や事業化の手法などを学ぶプログラムなどを通じて、起業やその後の事業展開までをサポートします。

研究者の起業支援

研究の成果を活かして、事業化、起業化を推進するための起業支援に力を注いでいます。特に、起業に必要な検証や開発を進めるための“Gapファンドプログラム”を充実させ、開発資金の提供やメンタリングなどにより、起業に向けた準備を支援しています。また、起業した後のインキュベーション施設の提供のほか、投資家にビジネスモデルをプレゼンテーションするイベントやワークショップを開催するなど、新しい人脈を築ける環境を整えています。

研究活動の紹介

名古屋大学は、社会に研究や教育を発信するアウトリーチ活動に力を入れています。2011年には、サイエンスとものづくりを気軽に楽しむ文化をつくる目的で、「あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク」を発足。名古屋大学をはじめとする地域の27の大学や社会教育施設が参加しています。夏休みと秋に開催される「あいちサイエンスフェスティバル」は、子どもも大人も楽しめる催しが好評を博し、人気のイベントとなっています。

あいちサイエンス・
コミュニケーション・
ネットワーク
参加機関数

27



産学共同研究の進展

さまざまな社会課題の解決を図るために、企業と連携した産学共同研究を進めています。大学と企業の研究者が一つ屋根の下に集結し、これまでの枠を越えて連携。新しい未来の実現を目指す研究を展開しています。高度な研究力への期待は、多くの外部資金や優れた人材を集め、さらなる教育研究、社会貢献の推進につながっています。

産学協同研究所・
産学協同研究センター・
産学協同研究講座・
産学協同研究部門 設置数

35



詳細はこちら▶



GLOBAL 国際連携

世界トップ大学との連携、英語による講義の提供、
留学プログラムの充実など、教育のグローバル化を進めています。
各国の学生や研究者が行き交い、
世界とつながるキャンパスが、ここに。

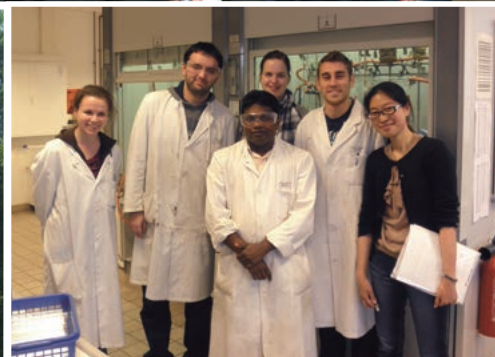
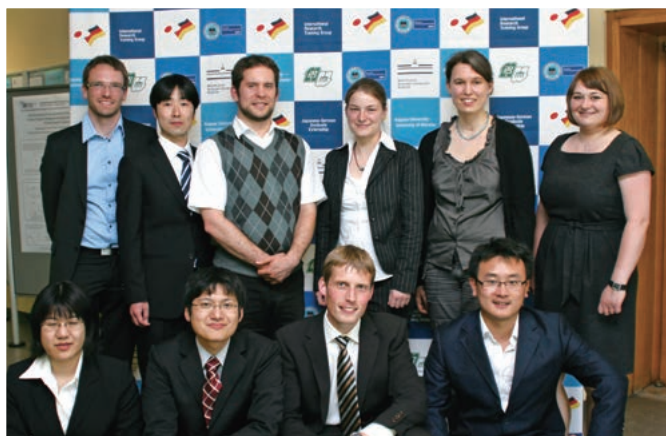


ジョイント・ディグリープログラム

名古屋大学は2015年、日本初となる「ジョイント・ディグリープログラム」を開始しました。世界トップ大学と連携して専攻レベルで研究・教育を行い、合同学位審査によって国際的にも質の保証された博士学位を授与、日本のフロントランナーとして国際標準の教育を拡大しています。これらのプログラムを通じた国際共同研究や共著論文の増加が期待されています。

全国のジョイント・
ディグリープログラム
のうち、名古屋大学で
実施している割合

24%





キャンパスの国際化

名古屋大学は3,000名を超える留学生が学ぶ、グローバルキャンパスです。英語で学位を取得できるG30国際プログラムを設け、世界各国の留学生を受け入れています。NU-EMIプロジェクトでは、G30の講義を受講する日本人学生をサポート。留学生と日本人学生がともに英語で学び、国内にいながら留学の感覚が得られます。

海外留学プログラム

「卒業・修了までに様々な海外での経験を目指す」を目標に、海外留学プログラムを充実させています。長期の交換留学プログラムや短期海外研修などに多くの日本人学生が参加し、コミュニケーション力の向上はもちろん、多様性に富んだ世界で活躍するための視野や価値観を養っています。専門教員による留学指導・教育を実施し、年間1,000名以上の学生が利用しています。

交換留学プログラムで留学できる協定校

130

校・機関

留学生の
出身国
(地域)数

95

詳細はこちら▶



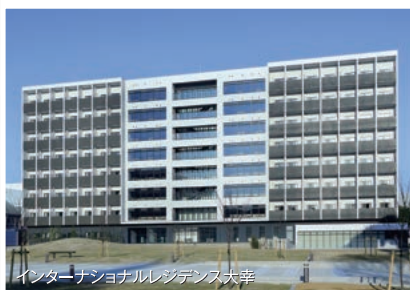
CAMPUS キャンパス

世界水準のサステイナブルキャンパスへの創造的再生へ——
次世代へつなぐキャンパスマスタープランに基づき、
学生、教職員、地域の人々が集う共創の場、
地域社会のイノベーション拠点づくりを進めています。

土地面積 **3,123,796** m²
建物面積 **830,299** m²



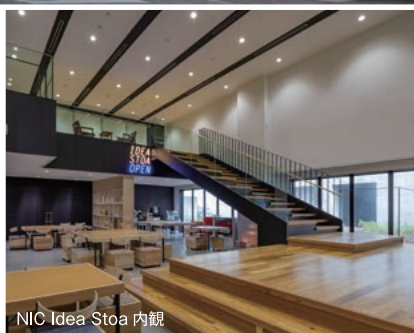
E1 創発工学館



インターナショナルレジデンス大学



附属病院中央診療棟 B 提供：医学部附属病院



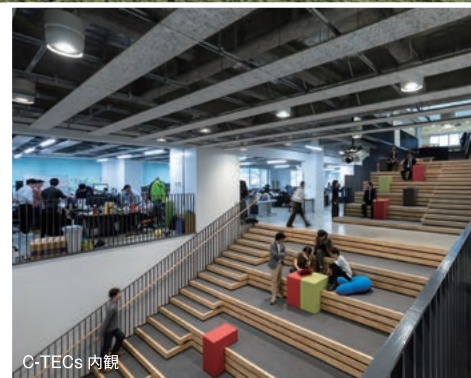
NIC Idea Stoa 内観



センター・リサーチ・ライブラリ内観



オークマ工作機械工学館



C-TECs 内観

広大なキャンパス、研究フィールド

大学の経営理念に基づくキャンパスマスタープランを他大学に先駆けて策定し、施設・設備と環境の整備を進めています。目指す姿は「世界水準のサステイナブルキャンパス」です。長年にわたり教職協働で取り組んできたキャンパスマネジメントの成果は2015年に日本建築学会賞を受賞しました。2022年からの現行のマスタープランでは、最先端の学習・研究施設の整備、地域と産学連携の拠点となる交流スペースの再編、カーボンニュートラル化、ダイバーシティ対応などをテーマに取り組んでいます。

カーボンニュートラルを推進

キャンパス整備の基本方針は、エネルギー消費を減らす「省エネ」と再生可能エネルギーの利用を増やす「創エネ」。既存設備をエネルギー消費効率の高い機器に更新するとともに、施設の新築や改築、大規模改修時にZEB化することを原則としています。また、太陽光発電などを積極的に導入してエネルギーを生み出し、キャンパス全体でのカーボンニュートラル化を推進します。

ZEB化建築物

6

(整備中含む)



未来へつなぐ歴史・文化的遺産

東山キャンパスの豊田講堂と医学部附属病院の門・外堀は、ともに国の登録有形文化財として登録された建造物です。1960年に建設された豊田講堂では入学式、卒業式などの行事が開かれ、前庭で大学祭が開かれるなど「大学のシンボル」として学内外に広く知られています。鶴舞キャンパスに復元保存された附属病院門・外堀は1914年の建造物で、1940年代の第二次世界大戦における空襲により大半の建造物が焼失した中で現存する歴史的遺産です。

国の登録有形文化財

2



詳細はこちら▶





TOPICS トピックス

日々、新たなトピックが生まれる名古屋大学のキャンパス。
注目の取り組みや話題をお伝えします。

人々と大学の知が交わる共創の拠点 Common Nexus開館

2025年7月1日、大学と地域、社会をつなぐ共創拠点 Common Nexus（コモンネクサス、愛称: ComoNe（コモネ））が東山キャンパスに開館しました。学生や教職員だけでなく、一般市民や企業などすべての人々が集い学ぶ場として開放します。年間を通じて研究者やクリエイターの活動展示、学生と企業の交流、子どもたちの体験イベントといった催しを企画し、「大学の知」を広く社会に発信し、分野・世代を超えて人々が交わり、イノベーションを創造する場となることを目指します。

ComoNe は地上1階、地下2階建てで地下鉄名古屋大学駅と直結し、屋上のすべてを芝生で覆い、豊田講堂の前庭から中央図書館にかけて広大なグリーンベルトを作り上げています。来場者が自由に利用できるフリースペース、大学や企業、個人の

活動を展示するコーナー、講演会やライブが行われるホール、ものづくりエリア、動画撮影スタジオ、貸しキッチン、会員制コワーキングスペースなどを設置し、世代を超え分野を超え、あらゆる人が行き交う場として一般開放します。

大学の知を広く社会に知ってもらうため、「論文ではなく感性で伝える」のが ComoNe 流。ギャラリー、あるいは美術館、博物館のような空間を創出して、来場者に五感から伝えます。施設内では常時、学内外から広く公募したサイエンス（科学）、アート（芸術）などを融合した STEAM 作品やプログラムを展示、実演します。「新たな社会価値の創造」「次世代の育成」「地域の賑わい創出」「国際交流」など、多彩なテーマで催しを展開する予定です。



ComoNe 外観



ComoNe 内観



ComoNe 内観



© Flavio Coddou



© Flavio Coddou

名古屋大学 ホームページ
<https://www.nagoya-u.ac.jp/>





総務部広報課

〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

<https://www.nagoya-u.ac.jp/>